学ぶ・語る・出会う

社会人ボランティアの声

井口　宏子さん

受講科目

・名著購読　「パンセと教養」

―なぜこの授業を選ばれたのですか？

A.私は 10 年くらい「森の案内人」として県から認定を受けて、小学校などで森林環境教育をさせてもらっているのですが、そのメンバーも高齢化してきましてね。やっぱり若い人たちと話をしたい、触れあいたいと思って申し込みました。そして、できれば大人数じゃなくて、学生さんたちとしっかり話ができるくらいの人数がいいなと思って。それと、哲学ってなんだか憧れのようなものがありましてね。いかにも大学の学問って感じがしますでしょ（笑）

―わかります（笑）それで、実際授業を受けられて、いかがですか？

A.難しいです（笑）最初はね、田舎暮らしの私が、大学という場でどんな発言ができるだろうか・・・と思っていたのです。でもね、この授業は常に会話のある授業なんですね。驚きました。相手の目を見て、コンタクトを取りながら進んでいくから、やっぱり自分も発言しなくちゃいけない。

私、林業に携わってきて、絶滅危惧種の種を植えたり、森づくりをしたりいろいろな活動をしてきたんだけれど、自分のしてきたことをアカデミックな場所で確認したい気持ちがずっとありましてね。それを受け止めてくださる先生や皆さんとお話ができることが本当にうれしいんです。それに、学生さんに私の経験してきたことを少しでもお伝えできたら嬉しいって思ってます。

―井口さんは大阪のご出身と伺いましたが・・・おいくつでこちらに来られたのですか？

A.２５で徳島に来るまで、都会の真ん中で生まれ育ちました。でもね・・・ずっとここは自分のいることろじゃないって感じてました。

―生まれ育った場所なのに？

A.はい。ちょうど二十歳くらいの時ね。昭和 30 年代。すごい経済成長で。団地もどんどん建ってね。仕事もね、いい待遇でしたよ。でもね、どこもかしこも規格品だらけのようで、私、息が詰まりそうだったんです。もっと血の通った、人間らしい生活がしたいって強く

強く思ってました。だから、水を見ても、花を見ても涙が出たりしてね。それは・・・ある意味、その時代の風を体に受けてしまったのかもしれませんね。当時読んでいた本にも影響を受けたのかもしれません。でも決して一時の感傷ではなかったんですね。だから・・・今、全然後悔していませんもの。大阪に行っても２．３日もしたら退屈で「あ～徳島に帰りたい」って思ってしまいます（笑）

―井口さんの故郷はもう徳島になっているんですね。
今のお話を聞いて、いろいろなことを感じました。森を守ったり育てたり、環境教育をされたり・・・井口さんのお話を聞いていると、とても活動的で信念の確かさをすごく感じさせていただくんですが、若い頃、そういうすごく悩んだり葛藤したりした人生の選択があったってこと・・・その中で自分の感性を信じて信念を持ち続けてきたこと・・・そんなすべてのことが今の井口さんの奥にあって力になってらっしゃるんだって感じました。
ひょっとすると、学生にこそ今のようなお話って必要なのかもしれない・・・
A.そうですね。だからね、私伝えたいって思うんです。それとね、マイナスはプラスに変えるチャンスだって思ってるんですよ。例えばね、私車に乗れないんです。そうすると誰かが乗せていってくれるんですよ（笑）そこで私の思いを話すでしょ。そうしてるうちに、手伝ってやろうとか一緒に勉強しようとかコミュニケーションが生まれるわけです。私、できないことがあるから友達が増えたって思ってるんです（笑）

―あ～、そのお話はいいですねぇ（笑）今の自分ができること、できないこと。できないところは補い合って知恵を出し合ってよりよくしていく。個々人が尊重されすぎているような時代だからこそ、今のお話は響きます。
ところで、今日はとても珍しいものを持ってきて下さっていますが・・・
A.そうなの！これは山まゆといってね・・・

井口さんのお話は第２弾へとつづく！！

井口さんはなんと公共の交通機関を使って穴吹から大学に来て下さっています！そのエネルギーの源の一端を今日、垣間見たような気がしました。それは「夢」に他ならないでしょう。第２弾は井口さんに「夢」についてお話いただきます。
井口さん、ありがとうございました。

5 月 11 日（月）　学生支援室にて